おはようございます。今日は、ハロウィーンですね。楽しみにしている人もいるのではないですか。さて、立教女学院さんと合同で作った、カレンダーを見ると、十一月一日の所に「諸聖徒日」と書いてあります。昔は、「万聖節」なんていう言い方もしました。この諸聖徒日、全ての聖人（諸聖徒＝キリスト教に尽くしてくださった人）を覚えて祈る日のことです。この諸聖徒日のイブ、英語で言うと「All Hallows' Evening」。All Hallowsが「全ての聖人＝諸聖徒の」で、その「All Hallows' Eve→Hallows' Eve」が短くつまってハロウィーンと呼ばれるようになったと言われています。キリスト教的には諸聖徒日の方が大切な日という訳です。

今から二千年も三千年も前、ケルト民族という、古くからヨーロッパに住んでいた人たちの収穫感謝のお祭りや先祖の霊が戻ってくるという、日本で言う「お盆」の行事のようなものと、この諸聖徒日がミックスされて、今のハロウィーンの元になったようです。

ハロウィーンには先祖の霊だけではなく、悪魔や魔女や幽霊が死後の世界から戻って来ると言われています。怖い仮装をするのは、悪魔や魔女を脅かすためとか、仲間だと思わせ、身を守るためだとか言われていて、近頃は、大人でも奇抜な格好をしている人がいますね。

ちなみに、四年生以上の人が習っている、英語の主の祈り「Our Fathe, who art in heaven,（天におられるわたしたちの父よ） hallowed be thy name;（み名が聖とされますように）」の hallow がハロウィーンの hallow で、挨拶の hello ではありません。

「Trick or Treat」、直訳すると「いたずらか、もてなしか選びなさい→お菓子をくれないといたずらするぞ。」という言葉を、低学年の人も英語の授業で習いましたね。

今からちょうど三十年前、アメリカに留学した高校生が、ハロウィーンで出かける家を間違えて、驚いた家の人が「Freeze＝動くな」と言ったのを「Please＝どうぞ」と言われたと勘違いをして、その家の人に近づいたので、銃で撃たれるという恐ろしい事件が起こりました。アメリカは銃社会。銃の使用が厳しく取り締まられている日本では、こんな悲しい事件は起こらないとは思いますが、くれぐれも trick　のやり過ぎには注意ですよ。

大切なことと言えば、十一月一日、二日は立教小学校の入学試験です。本来ならば、六年生が入学試験のお手伝いに登校、園児の面倒を見てくださっていましたが、今年もコロナのために見送り。過去には、お腹が痛くなった園児を保健室に連れて行ってくれ、優しい言葉をかけてくれた六年生がいてくださり、合格が決まった園児から感謝の手紙が学校に届いたことがありました。その頃の月曜朝礼は、グラウンドにみんなが集まって朝礼をするスタイルでしたが、このお手紙を読み上げて、思い当たる人がいるか聞いたところ、一人の六年生が手を挙げてくれました。このお子さんには、担任の先生にお願いして、給食大盛りとおかわり自由にしていただきました。

こんなドラマを演出してくださった六年生の参加が今年もなし。残念でなりません。

大切と言えば、立教大学が、五十五年ぶり二十八回目の箱根の駅伝本戦に参加できるようになったというニュース、知っているという人が、たくさんいるのではないでしょうか。

「立教」の名前が今ブームになっているかもしれません。まだ立教のことを知らない人に、立教の駅伝の選手を応援していただくために、君たちのできることがあります。ハーフ・ターム・ホリデーで、色々なところに出かけた時、立教生の誇りを持って振舞ってください。「小学生でさえこんなに立派なのか。ならば、大学生ならなおさらのこと。ひとつ立教を応援するか。」と、こういう訳です。

声に出さない、態度での応援、密かに、目いっぱい実行してみてください。先生たちも明日、明後日、全力を尽くして入学試験に取り組みます。うらやましいなぁ、君たちが。

（立教小学校校長　田代　正行）